

# 琉球大学学術リポジトリ

## [抄録] 最近における琉球の農業事情とその問題点

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一 (抄録) , Shimabukuro, Shun-ichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015107">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015107</a>

## 最近における琉球の農業事情とその問題点

(西小喜一：熱帯農業 6：3 1963 137～141)

61年度の統計によると作付面積の首位は水稲で甘蔗これにつぐ。甘蔗も相当面積の作付がある。昨今問題のパイナップルは強酸性土壌を好む制約があつて作付面積からすると、わづか6%を占めるにすぎない。然も栽培地域は名護地区、石垣地区で特産地的性格の強い作物である。

水稲の苗代、育苗技術は日本に比べ著しくおくれ、厚播にすぎ苗代期間も長い。甘蔗は養豚飼料として二次的換金作物の使命を有するので、最近のような作付反別の減少は大問題である。

琉球の甘蔗作は気象の影響を強くうけるためN:C<sub>o</sub>310の如き短稈多分けつ種の普及を図つて成功している。

生産物の市場価格は甘蔗、水稲、甘蔗の順に低くなつてゐる。但し甘蔗は日本政府の特恵措置に依存するものであるから貿易自由化の決定した今日必ずしも有利な作物として今後安心はできない。

要之琉球農産物は何れも国際市場における競争を必要とするものでありながら現在の生産費は国際価額を遙かに上廻つてゐる。故に栽培技術の向上と経営の合理化を図ることは重要な課題である。栽培技術の点から水稲については保温折衷苗代或はビニール苗代を一期作に用い、薄播を採用し、また品種の選択普及に留意し(例えば藤坂5号、奥羽208号、ゴマシラス)甘蔗については琉球模範農場で行つてゐるビニールトンネル内での促芽苗の本圃への移植、パイナップルでは新品種の導入による果型の改善と芽芽分化処理による熟期の移動や、工場における処理能率の向上(例えば台湾における女工1人の処理能率は2～2.5ケース、ハワイ3ケース沖繩では1.5ケースと低い)をはからねばならない。つまり農民に対して価格引下げの決意を促すことが重要な課題である。

(抄録・島袋俊一)